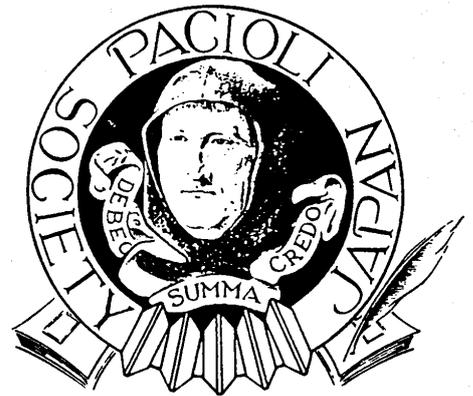


Accounting, Arithmetic & Art Journal



NO.12

The **IP**ACIOLI **S**OOCIETY **U**JAPAN

1998 . 10



第10回フォーラムのお知らせ

このたびイタリア中・近代史および地中海中世商業史が専門である齊藤寛海先生(信州大学教授)から「中世後期のイタリア商業」のご報告を受ける機会に恵まれました。イタリア・ルネサンス期の商人世界を余すところ無くご紹介いただけることでしょう

時:平成10年10月31日(土)午後2時から6時30分(講演2時間、懇親会2時間)

場所:拓殖大学文京キャンパスD館会議室(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅下車5分)

東京都文京区小日向3-4-14 TEL03-3947-2261

<佐藤寛海先生のプロフィール>

[略歴]

1945ソウル(京城)に生まれ、鹿児島県、新潟県で過ごした後、東北大学文学部、同大大学院文学研究科修士・博士課程で西洋史を学び、1973年信州大学教育学部に外国史に担当教員として奉職、現在に至る。この間長期三回、短期二回のイタリア留学を積む。

[最近の業績]

「イタリアの諸都市と国家」『世界歴史』第8巻、岩波書店、1998年

「トスカーナ大公国の領域構造」『信州大学教育学部紀要』第90号、1997年

「中世ヨーロッパの貿易」『中世史講座』第11巻、学生社、1996年

「シャイロックの時代のユダヤ人」『一橋論叢』第116巻第4号、1996年

翻訳・星野秀利著「中世後期フェレンツェ毛織物工業史」名古屋大学出版会、1995年



文献案内

泉谷勝美著「スムマの径」森山書店、1997.4.7

片岡泰彦稿「『パチョーリ簿記論』の翻訳書」雄松堂書店 PINUS、No. 43(1997)

片岡泰彦稿「“会計学の父”を訪ねて」日本経済新聞朝刊「文化欄」1998.3.7

片岡泰彦編集『我国パチョーリ簿記論の軌跡』雄松堂書店、1998、01.

茂木虎雄稿「<書評>片岡泰彦編集『我国パチョーリ簿記論の軌跡』雑誌「会計」vol.1.154,No.2(1998)

[以前の文献は本誌7号及び9号を参照してください]



P・ガーナー氏からの手紙

三代川 正秀

本稿は1996年10月16日、86才を迎えて亡くなられた Garner,S.Paul アラバマ大学名誉教授に対する追悼の意を込めて綴ったものであることをお断りしておきます。



(村井撮影：8月12日 学会控室にて)

四年に一度開催される会計史家国際会議(The 7th World Congress of Accounting Historians)が1996年8月11～13日、カナダ・オンタリオ州キングストン(トロントから車で東へ200マイル)にあるQueen's 大学にて開催された。オンタリオ湖畔・ホリデーインのコンベンション・ホールでは11日湖に陽の沈む頃合を見計らって、ウエルカム・レセプションが賑やかにもたれた。ご一緒した片岡泰彦先生(大東文化大学)からディター・シュナイダー(ドイツ)やリチャード・マクベア(イギリス)の紹介をいただきながら、あることを思い出していました。

それは十数年も前のことですが、サンフランシスコ市立大学のオランダ系アメリカ人 A.van Severter の英訳書(O.ten Have の『会計史』)を日本語版にしようと思い、そのヴァン・セベンターに故テン・ハーヴェ氏未亡人との連絡にお骨折を願ったことがありました。その折のお礼を述べたくて、数回アメリカ会計学会(AAA)の年次大会に出掛けましたが、とうとう今日まで会えず終いでした。

そしてヴァン・セベンターがこの会場にいるかも知れないという淡い期待を抱いて受付嬢に尋ねるなり、入り口近くに居たご婦人同伴のご高齢者たちのテーブルに案内されました。ヴァン・セベンターは奥様との会話を中断され、直ぐに私のことを思い起こし、それから出席者の中では一番の長老と思しき隣に座る人に紹介され、近いうちにこの老人と仕事をするが、君もどうかという話になりました。それが86才を迎えるガーナー氏でした。彼はオハイオ州タスカルーサ市から2000キロをご息子と孫の3人で3日間かけてドライブしてきたとのことでした。翌日の岡野 浩先生の報告会場ではガーナーが車椅子に体を委ねながら丁寧なアドバイスをなされる姿を、またその日のランチョン・パーティーでは、彼の誕生日を祝って出席者全員が「ハッピー・バースデー」を合唱、それに応えて車椅子から立ちあがり、右手を高くとなびかせるように挨拶されていたのが印象的でした。

このパーティーの席上、私の向かいのテーブルに本学の岡本治雄先生が座りその右隣にアリチャ・ヤルーガ(ポーランド)の弟子アンナ・シフタ女史がいて、岡本先生と歓談されています(学会が祝った最後の誕生日とガーナーの挨拶)した。

この会議に出席されていた勝山 進先生(日本大学商学部)とカナダ・ウォータローウ大学に留学されている村井秀樹先生がポーランドの学者たちを知っており、村井先生からパチョリやコペルニクスについて言及した論文(「コペルニクス—経済理論家および会計実務家として—」君塚、ヤルーガ、シフタ、



(学会が祝った最後の誕生日とガーナーの挨拶)

村井の共稿 作新経営論集 No.4,1995)のあることを知らされ、帰国後君塚芳郎先生(作新学院大学)からこの論文を賜ることになりました。そして、この論稿の中にガーナー氏の代表作“Evolution of Cost Accounting to 1925”,The University of Alabama Press,1954. が紹介され、君塚先生がガーナー氏と20年来の交遊関係を続けておられることも分かった訳です。ついでにその邦訳書を手すべく本学小原 博先生に話したところ、なんとこの高価な本訳書をご恵贈いただくことができました。

すっかり国際会議のことも忘れかけていた秋口のこと、ガーナー氏から手紙(9/12 付)が舞い込んできました。その文面はキングストンで会えたこと、国際会議が成功裡に終えたこと、タスカルーサ市と習志野市とが姉妹都市であったことで都合10回も日本を訪問したこと、最初は1960年2月に家族と訪問し、日本大学、早稲田大学、国際キリスト教大学で講演して、その後これらの大学の教員や神戸、横浜、大阪、福岡の友人たちと交遊関係を続けていることがなにより嬉しいと書き、最近日本大学を定年退職し、東京の北部・調布市に住まわれる君塚先生と文通を続けている。またいま一番興味を持っていることは会計史で、“Evolution of Cost Accounting to 1925”,は日本でも翻訳され、Webシステムを使えば何時でも利用できることと綴っていました。また、アラバマ州のこと、アラバマ大学のこと、会計学の大学院や卒業生のこと、この大学で12年教授をしていたがその後20年近く学部長を勤めたため学生への教授を諦めなければならなかったことが残念であったと結んでいる。

なお、私宛のこの手紙の中にエクスター大学の誰某に宛てた手紙の写しが紛れ込んでいたのが気になり、私への手紙の要旨も掴めないままヴァン・セブンスターからの返事を待つていたところ、僅かな入院の後10月16日に亡くなられたことを片岡先生から(君塚先生を経由して)聞くことになった。カナダ留学中の村井先生の手紙によればインターネットでAAAのホームページを見ていた際、偶然に訃報をしり、E-Mailで勝山先生に連絡、その日の内に勝山先生もタスカルーサ市と姉妹都市・習志野市役所から連絡を受けられたとのことでした。

村井先生がガーナー氏にキングストンで撮影した写真を贈られたことがとても嬉しかったようで、ガーナーが口述した最後(11/1 付)の手紙を、その死後家族の希望で投函されたことを付記した手紙が村井先生に届いた。文面には、私三代川の名前も記し、二人に会えたことを喜び、カナダで活躍する教え子の名を挙げ、村井先生に紹介される暖かさの滲む内容でした。

私にとっては偶然にお会いできた会計学界の巨匠でしかなく、『原価計算の発展』(園田平三郎、敷田礼二、品田誠平、米田清貴共訳 一粒社 昭和33年)に関する業績も亡くなられて初めて知ったほどのお粗末極まるものでした。ですから追悼文など書く資格は無いのですが、何故か、この会議でのガーナー氏を巡る人々との関係が不思議なほど密に感じ、この縁を是非とも書き残したかった訳です。なお君塚先生からは多くの情報提供いただけたことを付記してお礼申し上げます。

暮れも押し詰まった1996年12月、会計学界の巨匠Vernon K Zimmermanの訃報(1928~96. 11月21日逝去)がイリノイ大学から全世界に向けて(AAA,AAH)発信されました。この二人の死は故人の業績に学会挙げて報いようとする敬虔な気持ちと懐の大なね優しさを知る機会ともなりました。偉大な二人の会計学者の冥福を祈って筆をおきます。1996.12.20.

<注>

1) Garner,S.Paul(1910~1996)国際会計と原価計算史の分野で貴重な業績を上げた会計学の教授 1932年Duke大学から経済学のBAを、1934年同MAを受け、会計学のph.Dは1940年にテキサス大学から受けた。1956年に出版された“Evolution of Cost Accounting to 1925”,The University of Alabama Press,1954. は多くの受賞と日本および中国で翻訳されている。1951-52年の会計学会(AAA)の会長を勤め、その国際部門創設に助力した。1973年には会計史学会(AAH)の発起人となり、また国際事業学会の結成に参画した。アラバマ大学の経営学部長を長く勤め、1971年名誉教授となり退官した。そうして、Richard Vangermeersch は「かれはアメリカが全世界に派遣した会計学の大使である」と結んでいる。

Chatfield,M.and Vangermeersch,R.eds.“The History on Accounting:An International Encyclopedia,”1996,
2) 1994年ガルカ・パチョーリの『スママ』出版500周年に当たったので、その年ヴェニスで第7回特別会議が例外的に開催されている。

3) 第6回京都大会でヤルーガ、シフタが講演する予定であったが、外貨事情等ポーランドの国内問題があり、出席できず、その講演原稿を入手されて、紀要にまとめられたものである。



ハーウッド・コレクション、久留米人学に納入

本誌8号でご紹介したアメリカのハーマン・ハーウッド会計士が収集した1,320冊の企計関係の古書は、

丸善書店を経て、1997年8月に久留米大学に納められた。

同大学商学部が西暦 2000 年に創設五十周年を迎えることから、商学部同窓会、父兄会、大学が各々三分之一を出し合って、約1億円で購入したものです。布少価値を認め、大学関係者一丸となって集めた清財で購入されたことに敬意を称します。この蔵書リストはインターネット上で公開されています。<http://lib.mii.kurue-u.ac.jp>



中西旭先生イタリア共和国「コマンドトーレ」叙勲

中央大学名誉教授中西旭先生が1997年1月22日、イタリア国より、ルカ・パチョーリ研究・流布の功績に対し、コマンドトーレ章を授与されました。なお、先生より本会に『ルカ・パチョーリ』ススム出版500年記念シンポジウム祝賀セミナー平成6年11月 11 日主催イタリア大使館」ビデオ3巻(Ⅰ 83分、Ⅱ 110分、Ⅲ 40分)の寄贈を受けました。先生からは、以前に中西他著「ルカ・パチョーリの生涯」(日本ミロク票簿)と谷口不二雄男「パチョーリ遺言書」(ミロク経理)を各三冊づつご恵贈恕いただいています。

今回のビデオフィルムともども会員の申し出があれば貸与いたしますのでご一報ください。

わたくしども日本パチョーリ協会は、ルカ・パチョーリの業績を偲び、会計史、数学史、美術史などに興味を持たれる方々の研究と親睦を目的とする会合です。関心のある方は是非下記世話人等にお声をお掛け下さい。ご案内申し上げます。

世話人:岡本治雄・片岡泰彦・鈴木一道・佐々木重人・三代川正秀
監 事:種田勝正・松井隆幸

The **MACIOLI** **SOCIETY** **JAPAN**

日本パチョーリ協会 〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学 商学部 三代川 研究室 TEL.03-3955-8783
The Institute for Management and Accounting/Takushoku Univ. Miyokawa Office